



# おじやりんく通信

## 児童発達支援・放課後等デイサービス 「輝-HIKARI-さいたま」3月1日から、 さいたま市北区でオープン!

### オヤジたちの てづくり施設

本年3月1日、児童発達支援・放課後等デイサービス「輝-HIKARI-さいたま」がオープンしました。

施設長の山中と、児童発達支援管理責任者の加藤を含め、約10名のスタッフで、障害のある児童・生徒を大切に預かりしています。

おやじりんくが展開する、児童発達支援放課後等デイサービス「輝-HIKARI-さいたま」は、昨年9月にオープンした「輝-HIKARI-志木」に続き2件目。障害のある子どもを抱える父親たちが集い、てづくりで施設



児童発達支援・  
放課後等デイサービス  
**輝-HIKARI-**  
さいたま  
埼玉県さいたま市北区吉野町1-339-8 TOWAビル1階  
TEL:048-783-4981



を立ち上げました。  
安全面で考慮する場所に関しましては施工会社などにより工事をしていますが、それ以外の設備や備品、飾り付けやレイアウトは、全てオヤジたちが考えて、オヤジたちのてづくりです。

施設内の拘った備品として、指導訓練室の蛍光灯をすべてLED蛍光灯に取り替えました。LED蛍光灯は、外側部分がプラスチックとアルミで出来ているため、割ってしまった場合でも、破片が飛び散ることがありません。「輝-HIKARI-さいたま」で子どもたちを預かるための安全配慮のひとつです。

道路に面して自立つ看板も設置しております。お近くにお越しの際は是非見学にお越し下さい。

また4月21日には、輿水恵衆議院議員(厚生労働委員会所属)、さいたま市議会議員の井上伸一、武山広道両議員の3名が見学に参りました。  
この内容について、翌日の公明新聞2面に「父の視点で自立支援」と題してご紹介頂きました。これからも地域に密着して、障害のある子どもたち、その親御さんたちが安心して施設に預けられるよう、一生懸命に施設運営を心がけてまいります。

### 埼玉県障害者交流センター主催のイベント

こどもたちは、  
オヤジのチカラを  
待っている。



## 障害者支援3団体による 「コラボーイベント」を開催

3月9日は、埼玉県障害者交流センターが主催となったイベント「こどもたちは、オヤジのチカラを待っている。」が開催されました。  
イベントは、講演・IT機器展示・絵画展・書籍販売・ブローカーによる写真撮影会・お絵かき教室と多岐にわたりました。



講演は午前の部として、当団体代表の金子が担当。「発達障害について考える」親父パワーで障害児を支える」と題して90分間の講演を行いました。  
午後の講演は、東田直樹氏・美紀氏による親子講演。東田直樹氏は「風になる」自閉症の僕が生きていく風景」として講演。お母様の美紀氏は「我が子の可能性を信じる子育て」と題して講演をされました。

またITを活用した支援機器の展示等を行いました。  
他に昨年10月から毎月開催していた「発達障害児の文化的交流を促す絵画教室」において、参加者が描いた作品を絵画展として展示。  
他に共催した、特定非営利活動法人日本障がい者写真協会のブースでは、障害のある方が主役となったブローカーによる写真撮影会を行い、思い出の一枚となる記念写真の撮影を行いました。  
また一般社団法人からふるのブースでは「アトリエからふる 絵画教室」と題して、絵画教室を開催。子どもたちが、たくさん作品を完成させ、その場で描いた絵をタンブラーに入れてオリジナルタンブラーを制作しました。また障害のある子どもたちが描いたイラストTシャツを販売しました。  
共催各団体が得意とする分野で、参加者たちと交流を行い、楽しいイベントとなりました。





映画「海洋天堂」上映会と  
障害者の性とお金の支援を学ぶ  
講演会

5月の埼玉開催に続き、  
映画「海洋天堂」の上映と、  
鹿野佐代子氏の講演により、  
障害者の未来を考える。



昨年11月4日は、大阪市内の大阪国際交流センターにて「映画「海洋天堂」上映会と障害者の性とお金の支援を学ぶ講演会」を開催しました。

第一部(午前の部)は10時30分から、代表の挨拶としてこのイベントの後援としてご支援頂きました、公益財団法人キリン福祉財団の事務局長にご挨拶頂きました。

また本イベントをご推薦頂きました、松下壮さいたま市議会議員にも、さいたま市からイベントに駆けつけて頂きましたので紹介致しました。その後は映画「海洋天堂」を上映。

自閉症のひとり息子とガンに冒され、余命僅かな父との感動ストーリーに、参加者の皆様は涙しながら鑑賞されました。映画上映終了後は屋食休憩を挟んで14時から第二部(午後の部)を開始しました。

第二部は、社会福祉法人大阪府障害者福祉事業団職員鹿野佐代子氏にご登壇頂き、1時間45分に涉って講演を行いました。なお、今回のイベント参加者の中には聴覚に不自由のある方も数名参加されましたので、手話通訳の方にもご協力頂き、講演の内容を手話にて同時通訳して頂きました。

講演の内容は「映画「海洋天堂」からみる生きる力を育む支援(親が元気なうちに行けること)」と題して講演。鹿野さんは30年近くもの間、知的障害のある方々を支援された経験をもとに、障害者が生活していくなかで直面する「性」と「お金」の問題に対して一緒に問題解決をしてきた経験が数々あります。

その経験から、障害のある方が自立する時に大切な金銭管理について、専門的にアドバイスができるように、ファイナンシャルプランナーの資格を取得。知的障害者を対象とした金銭活動の支援や管理方法などについてアドバイスを行っています。

今回の講演では、映画「海洋天堂」のストーリーからみた、父ひとり、子ひとりの問題点や、特定障害者特別給付費についての説明、またファイナンシャルプランナーからみた障害児者の金銭支援として、実際に相談を受けた三例についてご紹介を頂きながら、参加者の皆様と共に、問題点や対策について講演をされ語り合いました。



昨年12月21日、東京大学福武ホールにおいて、「こどもの認知特性の理解を深めるWEBサイトプレイカース発表・講演会」の事業は、子どもゆめ基金助成事業の、子ども向け教材開発普及活動として当団体が研究開発を行った「こどもの認知特性の理解を深めるWEBサイト」のプレスリリース発表会でした。

基調講演は、本システムの開発にあたり、監修として入って頂きました国立成育医療研究センター発達心理科医長で小児精神科医の宮尾益知先生(現・どんぐり発達クリニック院長)に「子どもたちのためにできること、ギフト教育の可塑性」と題して講演を頂きました。



こどもの認知特性の理解を深めるWEBサイト  
プレイカース発表・講演会  
「子どもたちのためにできること」  
宮尾益知先生講演

発達障害児の文化的交流を求める  
絵画教室

昨年10月から、さいたま市の大宮工房にて毎月、「発達障害児の文化的交流を求める絵画教室」を開催しています。

この教室では、感情を言葉にすることが難しい発達障害のある子どもたちに絵を描くことで、自分の想いや感じた事を表現してもらおうという取り組みを行いました。

今年の4月まで計6回が開催され、延べ40家族以上が参加されました。

また昨年度の6回で描かれた作品は、今年3月9日に埼玉県障害者交流センターで開催した「こどもたちは、オヤジのチカラを待っている。」のイベントにおいて、絵画展として展示会も行いました。

なお、この絵画教室に関して、今年度からは一般社団法人からふるさんと共同して毎月2回定期的に開催していく予定です。



さいたまパパスクールにて講演

10月19日、さいたま主催のセミナー「さいたまパパスクール4期の第2回目の講座で、代表の金子が講師を務めさせて頂きました。このセミナーは「パパがパパを育てる」「パパ同士学びあう」というセミナーで、約30名のパパが参加されました。今回、当団体の代表が話したテーマは「発達障害を克服する」父親だからできること」でした。参加した父親の子どもの年齢は0歳〜1歳が7割を占めており、まだパパに成り立てのお父さんたちが主でした。また乳幼児の子どもの抱えているパパたちに「発達障害」についてどうのように伝えたら良いか?ということもとても悩みながらも1時間20分にわたり講演しました。今までは、発達障害児を持つ親たちに対しての講演や、その関係者に対しての講演でしたが、今回は障害とは無関係な人たち、特にパパになったばかりのお父さんたち、発達障害について話しました。

